



東日本大震災は子どもたちもショックだったようです。子ども会議では「被災地の子どもたちと長く心をつないでいきたい」との意見が出ました。

※「ECOko」とは環境問題を考える子どもたち、Ecology+Kodomoの造語です。



## 緑が増えて 生き物が平和に 暮らせますように



百武 萌花  
福岡県  
和白中学校 1年

夢みる子どもキャンペーンの夏のイベントを決める、夢みる子ども基金の「第17回子ども会議」が3月27日、福岡市中央区のアクロス福岡で開催されました。

基金が「わたしのかなえたい夢」をテーマに、全国の小中学生から作文、絵を募集。応募総数3,193人の中から選ばれた22人の受賞者が出席しました。

開会に先立ち、東日本大震災の犠牲者と、3月20日に病気で亡くなった中村直理理事長代行に対し、全員で黙とうをしました。表彰式の後、子どもたちが作文や絵に託したそれぞれの夢を発表し、その夢をもとに、夏のイ

## 子ども会議で決定 東日本大震災の友と絆を！

岡部 憲和

子ども会議では活発な意見が出た



「夢みる子ども基金」ホームページはこちら  
「環境子ども新聞・エココ」の投稿がホームページからも出来るようになっています。

ホームページを開設している歯科医院の方は基金ホームページへのリンクをご検討ください。

URL : <http://www.yumemirukodomo.jp>

Webでの検索は

歯医者さんありがとう、私たちのキャンペーンは歯科医院などから提供していただいた金属冠で支えられています。

2面	息の長い支援で心をつなぐ！(基金事務局)、桜の植樹(堀江幸奈)、隆世のエコ生活(中原隆世)
3面	環境インタビュー⑨(堀江健一郎)、きれいな霞ヶ浦に向けて(鈴木恵太)、花いっぱい地球・イラスト(平尾修一)、四コママンガ(濱屋江里)
4面	ジャングルを探検したい・イラスト(山道慎)、うみを守る仕事をしたい(中野瑛稀)、ハクビシンの死(柏木誠史)、殺される子くまたち(堀江幸奈)、あとがき、新聞作りに参加して下さい、おことわり



東日本大震災の犠牲者と中村直理事長代行に全員で黙とう

# 息の長い支援で心をつなぐ!

## 宮城県・女川町へ 救援物資 基金事務局

「東日本大震災のために自分たちも何かしたい」と子ども会議の子どもたちの声を受けて、基金事務局は取りあえず、町が壊滅的な被害を受けた宮城県女川町の子どもたちに4月26日、靴下約500足と水の要らないシャンプー15本などを送りまし

た。女川町は宮城県牡鹿半島の付け根に位置し、女川原発もあります。人口約1万人の漁業の町で今回の地震による津波で約3900戸の家屋の8割が流失しました。

5月10日現在死者466人、行方不明者690人です。約2000人が女川原発や町の体育館などで避難所生活を続けています。約700人の児童、生徒の大半も避難所生活を送っていましたが、新学期から町外への転居が続いており、現在は約500人です。

「すべてを失った子供たちに教材だけでも揃えてあげよう」と



桜の苗木を植える子どもたち

### 今年も 桜の植樹



堀江 幸奈  
福岡県  
城南小学校4年  
第16回生

私は、3月27日に「子ども会議」の参加者3人と福岡市東区・青葉公園に桜の植樹をしました。夢みる子ども基金が取り組んでいる環境保護活動の一つで、一昨年からは始められ今年で3回目です。

毎年七本ずつ植え続け、年を追う毎に「子ども基金の桜の園」は広がっていくと思います。

私は、初めてスコップを使い、みんなの夢がこの桜の木といつしよに大きくなりますように、という願いをこめて、土をかけ、看板を立てました。

その時は、また数日前に東北地方で大震災が起きたばかりでしたので、来年この桜の木が開花する頃には、災害にあつた人達の心も花のようにやされたらいいのよ。そしていつか、この桜の園で被災にあつた人達と語り合えたらすてきだと思います。



中原 隆世  
埼玉県立春日部高校1年  
第14回生

### エコ生活が いよいよ役に立つ

に警察が発電機を回して、大きな交差点は信号を点灯させるようになったようだ。こんな生活がひと月近く続いた。

もう計画停電はしないようだが、大がかりな節電が必要になる。これまでの「エコ生活」がいよいよ役に立ちそうだ。この数年で我が家の電気製品は「エコ替え」が進み、電球を消費電力が少ない蛍光灯ランプに全部交換、一部LEDも入れた。冷蔵庫やテレビも省エネ型になった。

普段から我が家はラジオに親しんでいたため、停電の時もいつも通りの番組を楽しめた。冷房はエアコンに頼らない暮らしを心掛けてきたから、いつもの夏と変わらない。自然の風や生活の工夫でこの夏を乗り切ろう。

要はやる気の問題。これからは「エコ生活」の工夫のしどころだ。

僕の高校には、被災地の福島県の磐城高校から3年生が数人転入してみた。避難生活の中で受難勉強は大変と思うが、磐城高もこの前まで公立の男子校で、文武両道の校風が似た学校なので、環境は気に入っていたらいいと思う。クラスは理数系に力を入れたSSC(スーパー・サイエンス・クラス)に入ったが、大震災と電力危機で始まった高校生活。「快適に省エネを極める」を研究テーマにしようかと思う。

困ったのは計画停電。東京23区を除く東京電力管内は1日1回、どこかの時間帯で約3時間停電になった。5日に2日は夜、真っ暗闇となった。ろうそくの灯りで夕食をとり、ラジオを聞きながら過ごした。食事以外は寝ているようにした。危なくかつたのは信号が消えた道路。住宅地では確認しながら進むので心配ないが、バイクでは赤信号がないのをいいことに、交差点で速度を落とさずに走り抜ける車が結構いた。さすが



エコ生活が役に立つ



# ジャングルを探検したい

イラスト・山道 慎 大阪府松原第六中学校1年



山道 慎

今の僕に出来る事は何もないかもしれない。でも何か出来る事はないか考え続けている。何かは出る。何かは出る。自分出来る事をみつけて役に立ちたいと思う。そしてあの日のハクビシンみたいにかわいそうなお出先事が一つでも減らせたらと願う。

## うみを守る仕事をしたい



中野 瑛稀 福岡県 弥永小学校2年

ぼくのしゅつごいのゆめは、うみのかんきょうをまもるお仕事です。ぼくはおかあさんと、うみのえいがをみました。そしてそのえいがにああきょうがおりました。そのときおは、人がうみにいみすててさかなたちのおうちがめちやくちやになうてさかなたちがうみにすめなくなりました。だれとぼくきょうだけのことになりました。

ぐまがすめなくなりまして。「なぜうみでも、ぼくきょうでもこんなことがあつたのしょう。」うみは、人がうみをすててさかなたちがすめなくなつた。ぼくきょうは「おりがうけてさかなたちがすめなくなつた。なぜ人げんたちはうみやぼくきょうにそんなさかなたちをすめなうようになつたのしょう。人さかなのいのちはいじょう、そのことを人はわかつていないのしょうか。」だからぼくはうみをまもるおしごとをしたいとおもいます。

## ハクビシンの死



柏木 誠史 茨城県 江戸川学園取手中学校1年

塾の冬期講習のため母と石岡駅向かう途中、車道に一匹のハクビシンが死んでいました。(車にはねられたのかな。でも何でこんなにぎやかな所に…。)

暑や水不足の影響で、エサになるどんぐりや木の実が少なく被害が大きかったそう。だからわなを仕掛けて捕らえたり、時には射殺する事だつた。かわいそうに…。実際に被害にあつていない僕らから見るとどう思う。でも農家の人々やおそわれた人にとつたら、そんな事はいつてられないはずだ。一方野生動物の立場から見ると、おなががすいたからエサを探しているだけだ。自分達の住み家を人間の勝手な開発のためうばわれてしまつたんだ。何も悪気があつてそうしている訳ではない。ただ生きるためだ。

## 殺される子ぐまたち



堀江 幸奈 福岡県・城南小学校4年 第16回生



昨年秋の日曜日、朝食後家族がおもいおもいの時間をすごしている時だつた。「まただ。」

な祭りでにぎわつちのゴミひろいのボランティア活動にさん加している。軍手をはめ、ポリぶくろを手に、公園道路に落ちていたゴミを集める。すると、すぐにぶくろがいっぱいになる。その中、ジュースビールの缶はもちろん、屋台で売られていた「やきそばの食べのこし、ほとんど食べられないのではないかとと思われるおべんとうまである。どんな人が、どういう気持ちですてているのか、わたしは、心の中をのぞいてみたくなる。

## 新聞作りに参加して下さい

「環境こども新聞・エコ」は、環境をテーマに基金のOB・OG会員が中心となつてこどもたちが自分達の手で作る新聞です。「地球環境保護」について思ったこと、感じたこと、日々の生活の中での取り組みや、個人やグループでの活動など何でも結構です。みなさんの意見などをお寄せ下さい。投稿者は氏名、学校名と学年、住所、連絡先を必ず明記し、顔写真を添付のうえ基金事務局まで送って下さい。原稿や写真は基金のホームページからの投稿が便利です。ぜひご利用下さい。また原則としてイラスト・マンガはカラーでお願いします。「環境こども新聞・エコ」は年3回位の発行を予定しており、投稿は随時受け付けています。一人でも多くのこどもたちに新聞作りに関わってほしいと思いますので、みなさまのご投稿をお待ちしています。

● 投稿・問い合わせ先 ● **夢みるこども基金事務局**  
〒810-0042 福岡県福岡市中央区赤坂1-12-6-2F ☎092-751-0021  
e-mail: jimukyoku@yumemirukodomo.jp FAX092-751-0249  
URL: http://www.yumemirukodomo.jp  
「環境こども新聞・ECOko」への投稿待ってるよ!

## あ と が き

### これからの日本を立ち上げていくのは僕達こども

堀江 健一郎

福岡県 城南高校2年 第14・15回生

ECOko9号は、3月27日に開催された第17回こども会議を中心に掲載しています。ただ、その約2週間前に起きた想像をはるかに超えた大震災。この夢みるこども基金では、阪神淡路大震災、新潟中越地震、福岡県西方沖地震などで被災された方々と色々な形で関わってきました。そして、この度の東日本大震災。こども会議の出席者の中には、震災のため交通状況の悪い中大変な苦勞をされて参加して頂いた方もいらっしゃいます。僕が街を歩けばあちらこちらに「がんばろう日本!」「たちあがれ東北!」などと書かれた看板や旗を見つけます。今、国中が1つになって、日本を立て直そうとしています。原子力発電所だけでなく、エネルギーの問題は、自然環境と密接な関係があると思います。これからの日本を立ち上げていくのは僕達こどもです。僕達の夢をあきらめないためにも、是非、みんなの知恵やアイデアを『ECOko』に投稿してもらい、未来の地球、日本のために力を合わせましょう。

◎おことわり：この新聞はこどもたちの原文に基づいて作成しています。一部には筆者の事実誤認などがあるかもしれませんが、地球温暖化防止・環境保護に取り組むこどもたちの熱意と努力を読み取って頂きたいと思ひます。